NOBUO SHIMOSE

下瀬信雄展
天地結界

《クサソテツー萩市黒川ー》(部分)写真集「結界」より 作家蔵
ⒸShimose Nobuo

5/23thu▸7/7sun
9:00～17:00(入館は16:30まで)
月曜休※6/3月・7/1月は開館
[観覧料] 一般1,200(1,000)円
シニア・学生1,000(800)円

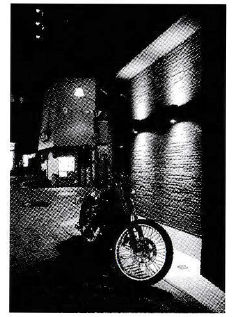
[主催]山口県立美術館、読売新聞社、KRY山口放送、萩市、萩市教育委員会
[後援]山口県教育委員会、山口市、山口市教育委員会、一般社団法人山口県観光連盟
山口商工会議所、一般財団法人山口観光コンベンション協会、湯田温泉旅館協同組合
萩商工会議所、一般社団法人萩市観光協会、萩市文化協会
[助成]公益財団法人花王芸術・科学財団

秒読みの街(風景回廊・その6)－澤野森都 写真展

主として 天神とその周辺での撮影で カラー作品 54～60 点を展示します
2019年7月9日(火)-15日(月) 福岡市美術館 ギャラリーA

第18回 フォト銀友写真展 福岡銀行退職者10名による写真展。
■6月17日(月)～28日(金)平日9:00～17:00／土曜10:00～17:00※日祝休
■**福岡銀行本店営業部1F** 福岡市中央区天神2-13-1 [入場無料]
☎092-723-2156

「ふくふくプラザ写真展」 ふくふくプラザを利用している団体による写真展のご案内。
■5月17日(金)～30日(木) [5/21(火)休] ／写心グループ・写遊結人福岡
■6月1日(土)～14日(金) [期間中無休] ／福岡市保育協会フォトクラブ・福岡読売写真クラブ
■6月16日(日)～29日(土) [6/18(火)休] ／チェリーフォトクラブ・デジパソサークル福岡
■7月1日(月)～14日(日) [期間中無休] ／日本風景写真協会福岡第一支部・キヤノンフォトクラブ福岡
■7月17日(水)～29日(月) [期間中無休] ／賛華会
■**福岡市市民福祉プラザ(ふくふくプラザ)1階 エントランスホール** 各展示とも9:00～21:00
福岡市中央区荒戸3-3-39 **お問い合せ(管理事務室)☎ 092-731-2932**



●溝口富士男「ある夜の情景」

■発行／ノーヴス フォトガイド
〒810-0041福岡市中央区大名2-3-3-302
☎092-761-1616 FAX 092-761-1770
novus@watch.ocn.ne.jp
□デザイン……………宮本哲子
□編集・発行人……………井上純子
□編集アシスト……………久間直子
□印刷……………株式会社伸和
※次号(Vol.170)2019年7・8月号掲載の
原稿締切は2019年5月27日(月)です。

入場料の表記のない場合、入場無料です。

Wide Angle

福岡市美術館 福岡市中央区大濠公園1-6
☎092(714)6051
開館時間／9時30分～17時30分(入館は17時迄)
休館日／月曜日(祝日の場合はその翌日)

●**大濠・舞鶴公園とその周辺の鳥・自然・風景写真展**
6月18日(火)～23日(日)[ギャラリーA]
A4、ワイド、四ツ切、半切、全紙など150～200点を展示予定。

●**NHK文化センター福岡教室 第14回 平川幸児写真教室 30周年記念写真展「i視点」**
6月18日(火)～23日(日)[ギャラリーB・C]
関心のあるものにカメラを向け、写真に取り入れる心の姿、それが視点である。それは自ずから、自己の心の存在を見つめ直すことにも繋がる。カラー・モノクロ、半切および全紙サイズ約110点を展示。

●**第59回 西日本フォトコンテスト入賞作品展**
6月25日(火)↓30日(日)[ギャラリーF]
半切パネル3点、四ツ切パネル42点、A3サイズ台紙張り写真83点を展示。
※別枠の広告もご覧ください

赤煉瓦文化館 福岡市中央区天神1-15-30
☎092(722)4666
開館時間／13時～17時 休館日／月曜日

●**山本シンセイ作品展「ジオラマ写真で観る日本の軍用機」**
5月24日(金)↓26日(日)
自作のミニチュア模型を実際に飛んでいるかのように撮影したジオラマ写真を展示。

佐賀県立美術館 佐賀市城内1-15-23
☎0952(24)3947
開館時間／9時30分～18時(入場は17時30分迄)
休館日／月曜日(祝・休日の場合はその翌日)

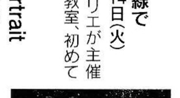
●**銀塩カメラによる写真展 16th Gelatin silver Photo Exibition**
6月25日(火)↓30日(日)[画廊会場]
写真の日(6月1日)がある6月に、毎年開催されている、今年で16回目となる写真展。銀塩カメラファンが集う、デジタル写真ではなく銀塩・手焼きの写真50～60点を展示。
※別枠の広告もご覧ください

福岡アジア美術館 福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル7・8階
☎092(263)1100
開館時間／10時～20時(入場は19時30分迄)
休館日／水曜日 http://faam.city.fukuoka.lg.jp

8F [交流ギャラリー]

●**「雑記帳」それぞれの視線で**
5月9日(木)～14日(火)
中川フォトアトリエが主催するARS写真教室、初めての作品展。

●**Fixtyle Portrait Fukuoka 2019**
5月16日(木)～21日(火)



●**九州産業大学芸術学部写真映像メディア学科 進藤研究室写真展「New Photography」**
5月30日(木)～6月4日(火)

●**九州産業大学芸術学部写真映像メディア学科 百瀬ゼミナール写真展「島展」**
6月13日(木)～18日(火)

●**TOIRO 5**(第5回 TOIRO展)
6月27日(木)～7月2日(火)

山口県立美術館 山口市亀山町3-1
☎083(925)7788
開館時間／9時～17時(入館は16時30分迄)
休館日／月曜日(祝日は開館)・展示替期間
※6／3(月)・7／1(月)は開館

●**牛腸茂雄展「SELF AND OTHERS」**
5月23日(木)↓7月7日(日)[展示室A]
料金／一般300(240)円
学生200(160)円

「SELF AND OTHERS」(1977)より
山口県立美術館蔵

●**山口県立美術館 開館40周年記念「下瀬信雄展 天地結界」**
5月23日(木)↓7月7日(日)[展示室D～F]
萩市在住の写真家・下瀬信雄は、家業の写真館を継いでからは、ふるさとの文化や風土を独自の視点で撮るスタンスを貫いてきた。90年代初めごろからは、4×5インチの大判カメラを用いたモノクローム撮影で自然界に潜む境界にせまる、「結界」をテーマとするシリーズに取り組んでいる。
料金／一般1200(1000)円
シニア・学生1000(800)円
※シニアは70歳以上の方・( )内は前売りおよび20名以上の団体料金
※障害者手帳などをご持参の方と、その介護の方1名は無料
※別枠の広告もご覧ください

アクロス福岡 福岡市中央区天神1-1-1
☎092(725)9100
開館時間／10時～18時(最終日は16時迄)
https://www.acros.or.jp

[1Fコミュニケーションエリア]

●**花と緑のまちかど写真コンテスト入賞作品展**
5月13日(月)～19日(日)
福岡市内の花と緑をテーマにした写真を募集した、第19回「花と緑のまちかど写真コンテスト」の入賞作品約23点を展示。

●**日本のユネスコエコパークと祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク**
5月20日(月)～26日(日)
大分県と宮崎県にまたがる祖母・傾・大崩(そぼ・かたむき・おおくえ)山系。豊かな自然風景や周辺地域の伝統文化などをパネル約20点で紹介。

●**ふくつの鯛茶づけフェアと福津三十六景パネル展**
5月27日(月)～6月2日(日)
福津市内の協賛店によるオリジナルの鯛茶づけを提供する「ふくつの鯛茶づけフェア」と、福津市が誇る優れた景色や祭りの風景などを集めた「福津三十六景」パネル約38点で紹介。

周南市美術博物館 周南市花畠町10-16
☎0834(22)8880
開館時間／9時30分～17時(入館は16時30分迄)
休館日／月曜日(休日・祝日の場合はその翌日)
http://s-bunka.jp/bihaku/

●**第28回 林忠彦賞受賞記念写真展「Otari-Pristine Peaks 山霊の庭」野村恵子**
5月11日(土)↓19日(日)〈観覧無料〉
北アルプスの小さな集落、長野県の小谷(おたり)村を4年の歳月をかけて撮影した作品。
※作品解説／5月11日(土)9:30～の開会式終了後(申込不要)
※トークショー「生命の営み。人と自然との関わりのなかで感じたこと。」
5月12日(日)10:30～〈話し手〉野村恵子
〈聞き手〉有田順一(周南市美術博物館館長／林忠彦賞選考委員)
定員／40名(先着順)
■電話申込
☎0834(22)8880

林忠彦記念室【常設】

●**織田廣喜**
開催中↓6月30日(日)
30数年にわたり一人の画家を撮り続けた作品。
■観覧料／一般200円(160円)・大学生100円(80円)
※( )内は団体(20名以上)
※受賞記念展開催中は、常設展は観覧無料
※企画展観覧券で常設を併せてご覧いただけます。

●**第23回 女性伝統工芸士展～作家とともに**
6月12日(水)～17日(月)
今回で23回目を迎える「女性伝統工芸士展」の歩みを、当時の写真やチラシ約20点で振り返る。

海凛房 福岡市西区今津8-3
☎092(401)0237
開館時間／(月・水～金)12時～18時
(土日祝)7時～11時 7時からモーニング
火曜日定休 ※臨時休業あり
※(株)エターナルラボプリント取次店／写真展、写真の販売をご希望の方、ご連絡ください

●**Gaia Photo Graphers Photo Exibition「TAke the color pink of love」**
4月29日(月・祝)～5月26日(日)
愛を感じさせる色、「ピンク」を撮った写真展。

アートエリア asi-para 福岡市中央区今泉2-4-39 拓栄ビル2F
☎090(2587)4076
開館時間／12時～19時(最終日18時迄)
期間中の店休日：水曜日

●**濱野和夫写真展「Vacation」**
6月2日(日)↓9日(日)
※6／5(水)店休日
初日15時から・最終日18時まで

熊本県立美術館 分館 熊本市中央区千葉城町2-18
☎096(351)8411
開館時間／9時30分～18時30分(土・日・祝は17時15分迄)
休館日／月曜日(祝日の場合はその翌日)

●**第13回 日本風景写真協会熊本支部写真展**
開催中↓29日(月・祝)[展示室1]

●**写団あけぼの会 第45回 写真展「野の花」と「風景」**
6月18日(火)↓23日(日)[ギャラリー]

伯耆町立植田正治写真美術館 鳥取県西伯郡伯耆町須村353-3
☎0859(39)8000
開館時間／9時～17時(入館は16時30分迄)
休館日／火曜日(祝祭日の場合は翌日)
http://www.houki-town.jp/ueda/
※一般900円 高校・大学生500円
小学・中学生／300円
(20名以上の団体で100円割引き)

●**植田正治の「出雲」と「松江」**
開催中～6月2日(日)
今回の展覧会では、植田流の演出がきかない被写体に対して、いかに挑み、いかに表現したかを感じ、植田独自の眼差しが楽しめる。

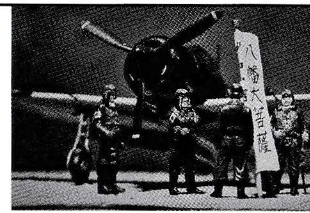
シリーズ〈松江〉より
1964－1968年

第59回 西日本フォトコンテスト入賞作品展

九州の写真愛好会で作る西日本写真協会恒例のフォトコンテスト。
入賞作83点を展示。

最優秀賞(文部科学大臣賞)「田の神さぁ戻し祭り」(3枚組)古瀬博一(福岡市)

6月25日(火)～30日(日)
福岡市美術館 ギャラリーF 9:30～17:30(入館は17:00まで)
福岡市中央区大濠公園1-6 ☎092-714-6051
問い合わせ先＝西日本写真協会 ☎092-711-5491



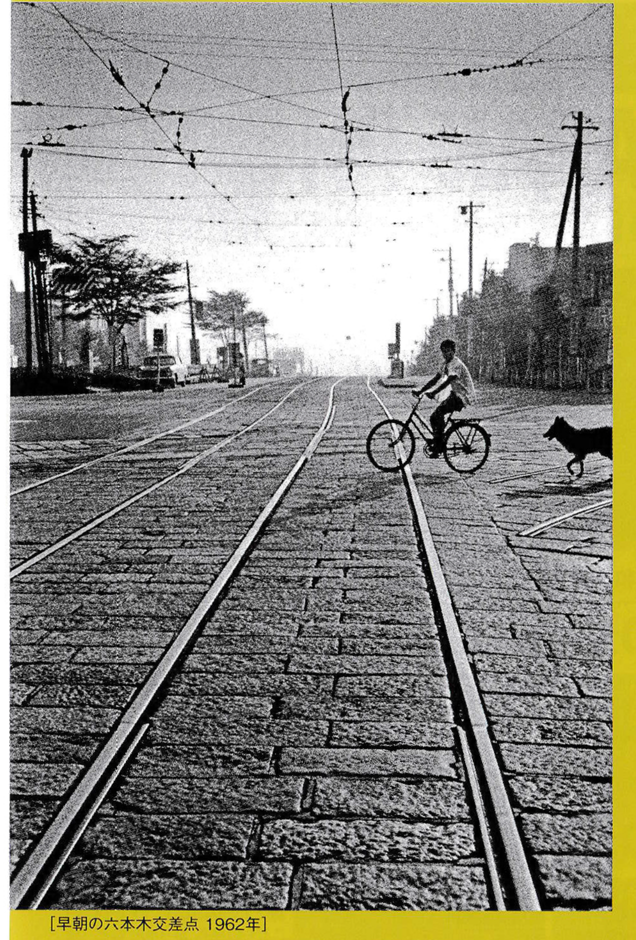
山本シンセイ 作品展
ジオラマ写真で観る日本の軍用機

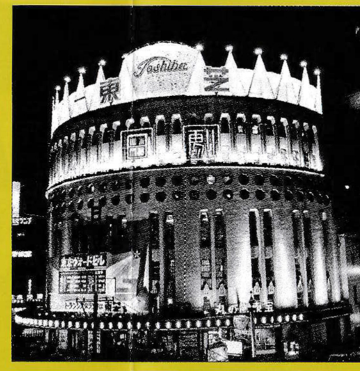
自作の細密仕上げによるミニチュア模型をストップモーションが掛かったように写すのが特徴です。模型10点、写真15点を展示。

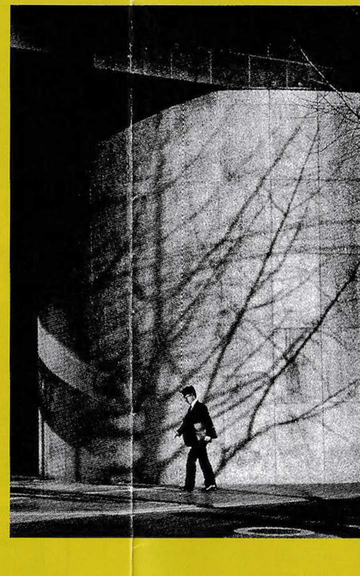
5/24(金)～26(日) 13:00～17:00[入場無料]
赤煉瓦文化館
福岡市中央区天神1丁目15-30 ☎092-722-4666

銀塩カメラによる写真展
16th GelatinSilverPhotoExhibition
❻/25(火) → ❻/30(日)
佐賀県立美術館
画廊会場
カメラサービス佐賀
おといあわせ→(0952)31-6003

福岡県展作品受付中
応募作品のご準備はお早めに
●作品プリント受付 ●額装・マットパネル仕上げ
●バックシート加工 ●アルボードパネル仕上げ
■キャプション制作、作品展示など、ご相談ください
県美・市美展用 入れ替えマットパネル製作
山﨑フォトハウス Phone & Fax 092-561-8400
〒815-0032 福岡市南区塩原2丁目7-2 パークサイドビル102


[早朝の六本木交差点 1962年]





時と生命をテーマに撮り続ける。

福岡市美術館が約2年半の休館を経て、2019年3月21日にリニュアルオープンした。

5月26日まではオープン記念展が開催され、6月より貸会場を使用する作品展がはじまる。6月の開催予定スケジュールの中に、NHK文化センター福岡教室　第14回平川幸児写真教室　30周年記念写真展「i視点」があった。1958年―1963年東京の「ある場所」の気配が閉じ込められた、平川幸児写真集「時の標」を知っていたから、永い写真家生活のお話を伺いたいと、ご連絡を差し上げた。

写真を始められたのは、父上から聞いた話が動機だった。絵の道に進もうと勉強していた時、絵とは違う視点で世の中の様子を伝えるものに写真があると気づき、日本大学芸術学部写真学科に入学し報道写真部会に参加した。写真のことは知らなかったけれど、なぜかユージン・スミスと土門拳の名前は知っていて、後にユージン・スミス氏の助手になる偶然に必然的な意味を感じたという。その時に作品プリントの感性を大事にすることを知った事が、デジタルになった現在でも通用する大事な財産になっている。

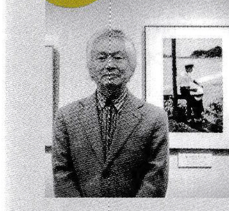
時を意識しながら記録する写真にはその時代を生きた証が残されている。ご自身の写真と一緒に写された展示作品がある。この作品はその昔、浜辺で絵を描いている少年と偶然出会い撮影し、写真展で発表したもの。少年に写真を送ると、「一生大事にします」という手紙がきた。1枚の写真に込められた時の存在。

文化センターの平川写真教室は30年になる。教室の生徒たちの写真展も2年に1度で、今回が14回目。「独自の知性と感性による感情表現こそが最も大切なこと」技術だけではなく写真は撮る人の感情が入らないと、観る人に感動を伝えられないと教えている。

30年も続く教室に当初から参加している人もいるらしく、平川氏の人柄が教室の継続となり、各自の作品に表現されるのだろう。

Profile

平川幸児 *Kouji Hirakawa*



1939年、福岡市生まれ。1962年日本大学芸術学部写真学科卒業、同年W. Eugene Smithの助手をつとめた後集英社などを経て現在フリー。社)日本写真家協会会員、社)日本写真協会会員。1989年～NHK文化センター講師。写真展1977年「化石として」ほか多数。
写真集1996年「時の標/Generation【1958-1963】東京」

写真展 NHK文化センター福岡教室
第14回平川幸児写真教室30周年記念写真展
「i 視点」
■6月18日(火)～23日(日) 9:30～17:30※最終日は17:00まで
■福岡市美術館[ギャラリーB・C][入場無料]